

民主主義の死んだ日

九月一九日未明

日本中に大きなうねりとなった

「戦争法案 廃案！」の

願い・祈り・シュプレヒコールを

無視して

安保関連法案は参議院で可決

四万ともいう国会前のデモの

海鳴りのような叫びの届く国会で

突如会場を変え審議もとばしての

法案裁決

議長席に駆け寄る与党

一足先を越されて

慌てて駆け寄る野党

黒山の人垣の中で

誰が何を言っているのかも

全くわからない怒号の中

起立を促す手の指示で

起立したのは与党だけではなかった

まるで暴力映画の一シーン

それでも賛成多数による

法案可決だつて！

議事録は

議場騒然 聴取不能とのみ

こんな情けない国会の中継が

世界に配信されたと思うと

恥ずかしい

幼い子どもたちの目に

どう写ったかと思うと

情けない

連日の雨の中

傘をさして押し寄せていた

国会前の大群衆

雨の中腰掛けて仮眠して

指まで白くふやけたという人もいた

赤ん坊を抱き幼子の手を引いて

この子たちを守ると駆けつけたお母さん

車椅子の人もいた

そして何より

彼ら流のやり方で 個人の意志で

この危機を乗り越えようと

声を上げたシールズ

憲法九条を都合のいい解釈で

戦争のできる国

普通の国にしようとする法案を

決して認めはしないと・・・

その決意と情熱は

大きな原動力になった

それは学者 芸能人 一般人

すべての年令 性別 職種を超えた

かつて歴史にない

大きな廃案のうねりにと繋がる

アメリカとの事前の約束通り

「肅々」と強引に法案可決

可決などと言えない

すさまじい混乱の中での

法案可決

こんな無茶な憲法無視の

法案を通す「絶対多数」の議員を選んだのは誰？

むごたらしい原爆で

傷つけた国の要求に

ひたすら応えようとする政府を

作ってしまったのは誰？

それは日々の生活に追われ

政治を見届けることを怠った

私達ではなかったのか

とりあえず経済の好転のみ考えて

この政権に夢を託した

私達ではなかったのか

ことさらに寒い季節に

衆議院の解散

総選挙で消費税アップの先送りの

民意を問うなどと

史上最低の投票率で選ばれた議員が

国民の代表などであるはずもなく

しかし形の上ではまさしく代表

かつてないほどの長い質疑時間

的外れの応答

幾つもの不信任案は

もちろんことごとく否決

そしてだまし討ちのような形で

安保関連法案は可決

これで同盟国を助けることができる

助けてもらうことができる

そのためには

自衛隊は地球の裏側にまで

武器を持って戦うことも可能

それが

戦争の抑止力になるなんて！

ならば法案反対の

私たちはどうしたらいい？

本気で考えその主張に共感できる人を

今度こそ選ばなくてはならない

この国の首相は

強引な手法で法案を通した代わりに

眠っていた若者たちの心を呼び覚ました

たとえ自分で勝ち取ったものではなくとも

人類の理想とも言える

「平和憲法」の心地良い揺りかごで

まどろんでいた多くの人達に

平和の尊さ、日常のありがたさを

思い起こさせた

現代史を改めて勉強しなければと

思わせてくれた

これからは

確実に未来を見据えて

投票に臨む人が増える

安保関連法案の強引な可決は

単なる民主主義の死んだ日ではない

新しく民主主義が生まれた日

はつきりと意識された

民主主義元年となる日

二〇一五年九月二一日